

談話室

インターネット資源の活用

Utilization of Internet Resources

小杉隆信*

Takanobu Kosugi

近年、インターネットの普及が急速に進んでいる。郵政省の調べによれば、日本国内の企業全体におけるインターネットの導入率は、1995年に11.7%であったものが、1996年は50.4%、1997年には68.1%まで伸びているという。インターネットの利用者数については、1997年において1,155万人に達しており、2005年には4,136万人にまで拡大するとの予測がある。

インターネットを利用することによる一番の利点は、コンピュータの前に座ったままで、多くのインターネット資源から必要なものを「採掘」し、それを仕事や趣味に活用することができることであろう（仕事上インターネットを利用する目的として最も多いのは「情報収集」、次いで「連絡相談」；郵政省調べ）。ここで言う資源とは、私たちがインターネットを通して閲覧し、獲得することができる情報を指す。逆に言えば、私たちがインターネット上でホームページを開設して何らかの情報を公開すれば、これもインターネット資源の一部であるということになる。

インターネット資源としては、新聞社が提供しているニュースなどがよく知られているが、文部省学術情報センターや種々の学術雑誌の出版社等による文献検索サービス、大学等の研究機関や本学会をはじめとする多くの学術団体のホームページにおいて提供している研究開発関連情報など、専門的な学術研究目的としても有用なものが多い。1999年には、文部省学術情報センターが新たに研究者情報検索サービスを公開するほか、特許庁が特許に関する検索サービス（特許電子図書館）を提供する予定であるなど、インターネット資源がますます充実すると期待される。

インターネット資源は日々拡充されており、その全体量は膨大なものとなっている。その中から自分に必要な情報を得るため、多くの方はインターネット資源を探すためのホームページにまずアクセスし、キーワー

ド等による検索を行うことによって、有用なインターネットホームページを見つけ出されていることと思う。

試みに、我が国で最もよく利用されているインターネット資源検索サービスの一つであるYahoo! JAPANにおいて「エネルギー」をキーワードにすると266件、「資源」では132件のホームページがそれぞれ検索される（1999年1月現在）。その他のキーワードで検索されるホームページの数としては、例えば「コンピュータ」では2,779件、「材料」で629件、「生物」で511件などである。インターネット利用者層の偏りや研究領域の広さの違いなどがあるために単純比較はできないが、エネルギー・資源に関するホームページ数がやや少ないように思われるのが残念である。

ところで、インターネット資源検索サービスには、手動登録型と自動登録型（ロボット型）の二つの型があり、手動登録型のサービスでは、作成者などによって登録を申し込まれたホームページのみが検索対象とされる（前掲のYahoo! JAPANもこの型に属する）ことをご存じだろうか。せっかく有用な情報を提供するホームページを作成しても、登録を行わないと、発見困難な資源となりかねないのである。

一般の利用者がより多くのインターネット資源を享受するためには、資源そのものを充実させるのみならず、その採掘を容易に行えるようにしなければならない。そこで、本学会の関係者の方々には、インターネット資源を利用するだけでなく、是非とも新たな資源をつくり出し、それらを種々の検索サービスから見つけ出すことができるものにしていただきたいと思う。

インターネットの普及が紙の消費量の減少や交通量の減少などの効果をもたらすことはよく指摘されているが、インターネット資源全体においてエネルギー・資源に関係するもののシェアが高くなることによって、閲覧される機会が増え、研究開発が活性化するとともに一般の方々の関心が高まるという、目に見えない効果も期待したいものである。

* 大阪大学先端科学技術共同研究センター助手
〒565-0871 吹田市山田丘2-1